

子どもたちに 核兵器も基地もない 平和な日本と世界を

憲法・平和・核兵器廃絶
メールニュース第15号
2012年3月7日(水)
全教・国民共同局

被災58年、2012年3・1ピクニデー集会が開かれました。(2/28~3/1)

アメリカがピクニ環礁で行った水爆実験から58年。今年も、3・1ピクニデー行動が、静岡市・焼津市で行われました。ピクニ被災から半年後、「原水爆の被害者は、私を最後にしてほしい」という言葉を残して亡くなった久保山愛吉さん。その思いは、昨年3月11日の福島原発事故を受けて、さらに強くせまってきます。「核兵器も原発もなくさなければならぬ」と。

「核兵器ノー」へ、アジア・太平洋の連帯を!

2月28日(火) 3・1ピクニデー日本原水協全国集会・国際交流フォーラム

今年の国際フォーラムには、3名の海外代表が参加しました。

ジョゼフ・ガソンさん(アメリカフレンズ奉仕委員会)は、「アメリカでは、軍事費をめぐって議論がたたかわされている。財政危機の中で大きな変化が生まれている。」と語りました。

チョン・ウクシクさん(韓国 平和ネットワーク代表)は、「北朝鮮の『核の野望』を考え、その解決を考えると、朝鮮戦争から現在に至るまで60年以上、アメリカの核脅迫を受け続けてきた事実をみななければならない。朝鮮半島の非核化は、核兵器のないアジアにとって死活的に重要な課題であり、核兵器廃絶に向かう日本と韓国の市民社会の連帯と協力が不可欠である。」と語りました。

リービン・タイタノ・カマチョさん(われらグアム人会員・チャモロ人弁護士)は、「アメリカは、アジア太平洋地域の拠点としてグアムの軍備増強を進めようとしている。我々は、基地の影響について具体的にさまざまな点から明らかにし、住民に発信している。われわれの運動で、基地建設を遅らせてきた。アメリカは財政難だが、その分、海兵隊の移転費用の多くを日本政府に負担させようとしている」と語りました。その運動はとて沖繩に似ているし、カマチョさんたちの楽天性も沖繩に似ているように感じられました。そして、私たちが日本政府に対して、「グアムへの移転費用を出すな。被災地支援に回せ。」と要求する運動は、グアムへの大きな連帯になることを確信とすることができました。

3つの行動を進めよう!

2月29日(水) 3・1ピクニデー日本原水協全国集会・全体会

雪のなか、参加者の乗った大型バスの到着が遅れる県もあるなかで、会場をいっぱいにして、全体会が行われました。

原水協・安井事務局長の基調報告では、以下の3点の行動提起が行われました。

①原爆展のとりくみを軸に地域ぐるみの署名に踏み出しましょう。

に向けた準備委員会がウイーンで開かれますが、そこで原爆写真展を行います。それに呼応して全国各地で原爆写真展を行きましょう。長崎市長はすでに全面協力を表明しています。原爆写真展で「被爆の実相」を伝えることが、核抑止力論を打ち破る力になります。

②日本政府に対して、被爆国にふさわしい役割を果たさせましょう。「核の傘」からの離脱、核密約の破棄、「非核三原則」を厳守させることを政府にせまりましょう。

③核兵器のない平和で公正な世界を掲げる原水爆禁止運動として、核被害の克服、原発ゼロの運動など、国民的共同と連帯を発展させましょう。



29日(水)の夕方には、8つの分科会が行われました。

第5分科会「被災地支援、原発からの撤退、自然エネルギーへの転換をめざして」は、福島の報告から始まりました。線量計をぶら下げたかわいい赤ちゃんの写真に心が痛みます。不安の中で住み続けざるをえない苦しみを若い父親が語りました。民医連からの支援活動のとりくみ報告の後、長尾副委員長が、全教の「放射能提言」を説明し、とりくみを報告すると大きな拍手が。教職員組合が、子どもたちを守るために、提言を出したことへの共感の拍手でした。

そして、浜岡原発廃炉を求めるとりくみ、各地の原発ゼロを求めるとりくみが交流されました。長野高の丸山大樹さんは、自然エネルギーへの転換を進めている自治体のとりくみを報告しました。小水力発電や太陽光発電など、長野県のいろいろな自治体ですすめられているとりくみに希望が見えました。

最後に、被爆者と福島農民からの「原発ゼロを決断すれば自然エネルギーへの動きが進む」「放射能による苦しみを断つには原発をなくすこと」という力強い発言があり、確信を深める分科会となりました。

第2分科会「核の傘からの離脱、核密約破棄、非核三原則の厳守、非核平和の日本とアジア・太平洋の実現を」では、核兵器禁止条約実現を「2015年を決着をつける年に！」するため、2012年をどんなたたかいの年にするかを課題に、各地からの報告や意見交流が行われました。

チョン・ウクシクさん(韓国平和ネットワーク代表)が「北朝鮮が核を持つ理由は、軍事資金がない中でも核を持てばアメリカや日本と同等になれると思ったからだ。アメリカや日本が軍事費を削れば、北朝鮮は核を持つ口実はなくなる。日本は核の傘から抜け、日本の素晴らしい自然エネルギーの技術を北朝鮮に提供できるような関係を築いてほしい。また、韓国の人々はアメリカと連帯して軍事力をあげていきたいと思っている、この世論を変えたい」と述べると参加者からは、「韓国の人々に核の被害を伝えていきたい」「韓国や中国の青年にも原爆資料館を訪問してもらったり、交流したい」などの発言や、グアム米軍基地についてたくさんの質問があり、韓国・グアムの現状を知ることができました。

発言の最後に、リービン・タイタノ・カマチョさん(われらグアム人会員)は、「グアム基地建設資金のうち63%は日本の税金からです、日本のみなさんはこのお金がグアムに行かないように、このお金が震災の復興などもっと有意義に使われるよう、運動を強めてください。」と話され、たたかいの連帯を強く感じることができました。

軍事費を削り、「核の傘」政策を変えることが非核の世界を広げることになる、署名や宣伝行動など草の根の運動をさらに広めようと、決意を強める会となりました。

3月1日(木) 焼津駅前を9:30に出発した墓参行進。そして、久保山愛吉氏墓前祭。久保山愛吉さんが愛した赤いバラの花を持って行進し、墓前に捧げました。

午後から、焼津市で開かれた「2012年3・1ビキニデー集会」は1800名の参加で第2会場も人があふれました。(主催:原水爆禁止世界大会実行委員会、3・1ビキニデー静岡県実行委員会)来賓の焼津市長は、「私たちは今一度、ビキニ事件を胸に刻まなければならない」とあいさつしました。第五福竜丸の乗組員として被災した大石又七さんは、被災のあと、放射能被害の事実が隠されたことを語り、「核兵器も原発も人間とは共存できない。今こそ力をあわせてなくしたい」と訴えました。

安齋育郎さんは、「広島・長崎・ビキニ、そして福島の被害を経験した私たちが歴史を切り開く力を発揮しよう。」と呼びかけました。

